

## クロタリア、セスパニアの種まき

目的: 水田の畑作地への転換  
トマト栽培のためのハウス作成

転換候補地 軽トラ小屋横の田んぼ  
田んぼの畔が壊れており、水張り難しい  
小屋の横から水が湧いており、灌水利用可能(小型ポンプは必要)  
作業圃場と家が近く管理しやすい  
面積: 約1a

### 播種の種類

クロタリア  
初期生育が極めて早く、**空中窒素を固定するため、後作の窒素施肥量を削減**

セスパニア  
**耐湿性に優れるため、水田転換畑で生育力旺盛で、転作小麦の前作に適します。直根型であるため、湿害のある圃場での排水性、通気性の改善に効果的**

一般地 【播種期】5月中旬～8月中旬  
都府県 【播種量】6～8kg/10a

【播種期】5月下旬～7月下旬  
散播: 5kg/10a

6 m<sup>2</sup>当たり  
600g 1a当たり



5 m<sup>2</sup>当たり  
500g 1a当たり



注意点 草丈1.5m前後(播種後約50日)になったら、ロータリーで立毛のまますき込むか、フレールモア等で5～10cmに細断後すき込みます。  
後作までにロータリーを2～3回かけ、分解期間は2～3週間以上みてください。

草丈1.5～2.0mになったら、ブラウ等で、立毛のまますき込むかロータリー耕を縦横方向へ2～3回かけます  
分解期間は2～3週間以上をみてください。開花以降は茎が固くなりますので、細断後、すき込むことをおすすめします。**すき込みが遅れると茎が固くなりますので注意してください。**

すきこみ 播種後、65-85日。草丈1-1.5mの開花はじめを目安にトラクターで好きこむ  
西村さんの本では茎が太いので、密植する前、1m位で刈っても良いとのこと。

### 緑肥作物の栽培方法と留意点

#### 播種方法

散播 手播きでもできますが、肥料等を散布する際に使用する際に使用する散粒機などを使うと、ムラなく短時間に播種ができます。  
なお、**発芽や初期生育を安定させるために覆土鎮圧を行ってください。**  
一般に覆土の厚さは種子の3～5倍といわれており、種子の大きさによって覆土の厚さを変える必要があります。  
ソルガムやエンバクなどの比較的大きな種子では3～5cm程度、ギニアグラスなどの小粒の種子では0から2cm程度の深さが目安となります。  
**覆土作業はロータリー、ドライブハロー、レーキなどで行い、さらに、発芽や定着を安定させるためにローラーなどで鎮圧を行います。特に種子の小さな草種では必要な作業です。**

条播 市販の播種機の利用が便利です。有害線虫対策として利用する場合は、条間が広すぎると効果のバラツキに繋がるため「散播」を基本としてください。

#### すき込み方法

ロータリーを使ったすき込みが一般的ですが、ブラウを利用した反転すき込みも作業能率が高くおすすめです。  
ソルゴーなど草丈が高い場合は、フレールモアなどで細断後すき込みをおすすめします。  
**また、緑肥の分解を促すためにすき込み後、2回ほどロータリーがけを行うことできれいな播種床を作ることができます。**  
(縦横にすきこむ)

#### 分解期間の必要性

圃場にすき込まれた緑肥作物は土壌中の微生物によって分解されます。  
緑肥作物は大きく3つに分けることができ、「糖類分解期」→「セルロース分解期」→「リグニン分解期」の順に分解が進みます。  
このうち「糖類の分解」は、主にピシウム菌によって行われ、期間中は一時的に菌密度が急激に増加・活性化します。  
ピシウム菌は作物の立枯れの症状の原因になることが多いため、すき込み後すぐに後作物を栽培することは避け、分解が安定するのを待つ必要があります。  
これが緑肥作物のすき込み後に必要な「分解期間」です。  
一般に分解期間は夏場で土壌水分が十分であれば3～4週間で足りませんが、低温期にば分解に時間がかかるため、分解期間も十分にとってください。